

TOPICS

スマート農業施設・機器を活用した実習

●環境制御ハウス

高さ5.3メートルのハウスで、養液栽培システムが導入されています。この施設では、窓やカーテン、暖房、炭酸ガスの発生機等を自動で制御することができます。現在、学生の研究用にトマトやパプリカを栽培しており、スマートフォン等でハウス環境を整え、植物の生育状況とデータに基づいた管理を行うなど、研究に有効活用しています。



●牛行動モニタリングシステム

牛の首や尾などに装着したセンサーによって、牛の採食や反芻^{はんすう}など様々な行動をモニタリングし、その蓄積データを解析することで、通常、日々の観察で発見している発情や疾病、分娩兆候を検知することが可能となります。解析結果はスマートフォン等にリアルタイムで通知され、学生は観察と照らし合わせながらシステムを使用しています。また蓄積データを卒業論文に利用しています。



●食味・収量センサ付きコンバイン

水稲や小麦を収穫しながら、ほ場ごとの水分とタンパク質含量、収量をリアルタイムで測定することができます。ほ場ごとの品質と収量を把握することで、次作の施肥量や作付計画に反映することができます。



●スマート農業の授業

スマート農業関連機械実演会では、ドローン、自動運転トラクター、ラジコン草刈り機等の最新のスマート農業機械類の操作体験等を行います。

また、新農業技術論の授業では、スマート農業の導入事例などを学ぶことができます。



6次産業化の技術を習得

●食品加工実習

農学科の食品加工実習では、農産物の生産だけでなく、加工(2次産業)、販売(3次産業)まで取り組む6次産業化について知識を習得します。農産物の加工技術の基礎や原理について学び、農産物を利活用した食品加工技術を身に付けています。

●加工・商品開発演習

研究科の加工・商品開発演習では、テーマとする農産物を取り上げ、商品化に向けて農産物マーケティングを学びながら、年間を通じて加工演習に取り組んでいます。1年間の総まとめとして、協力をいただいた生産者をお招きし、商品成果報告会を行います。



GLOBALG.A.P.の取得推進

農業経営に必須である「労働安全」や「食品安全」、「環境保全」等のGAP(農業生産工程管理)の取組を実践するため、GLOBALG.A.P.認証取得を進めています。

令和5年7月には果樹園芸専攻教室でブルーベリーの公開審査を受検し、9月に認証を取得しました。取組では、学生と教職員が一丸となり農薬散布や機械利用など全ての作業について、具体的に使用道具をあげながら危険箇所の評価を行うと共に、安全性が担保できる管理手順書の作成などを行いました。

今後も、幅広い品目でGAPの実践を進め、GLOBALG.A.P.認証の取得を目指していきます。



公開審査の様子



認定書が到着!